

- maternal behavior in Japanese macaques. Inuyama COE International Symposium "Research on long-lived animals: The past, present and future of longitudinal studies" (Poster presentation) (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p. 54.
- 5) Huffman, M. A. & H. Nishie (2001) Stone handling, a two decade old behavioral tradition in a Japanese monkey troop. XXVIIth International Ethology Congress, Animal Innovations- Symposium, (Aug. 2001 Tuebingen). *Advances in Ethology* 36 (supplements to *Ethology*): p. 35.
- 6) Huffman, M. A. (2001) A bio-cultural approach to discovering and evaluating herbal anthelmintics- the role of animal behavior and ethnobotanical studies. Natural Products Research Network for Eastern and Central Africa Symposium (Plenary Speaker) (Aug. 2001, Nairobi). Abstracts p. 13.
- 7) Huffman, M. A., Pebsworth, P., Bakuneeta, C., Gotoh, S., Obbo, C., Kiwedi, Z., Karamaji, J. & G. Muhumuza (2001) Ecological factors influencing the behavioural diversity of leaf-swallowing and other health maintenance aspects of the diet in chimpanzees of Budongo and Mahale. *Primate Society of Great Britain - Winter Meetings* (Dec. 2001, London).
- 8) Huffman, M. A., Pebsworth, P., Bakuneeta, C., Gotoh, S., Obbo, C., Kiwedi, Z., Karamaji, J. & G. Muhumuza (2002) Ecological factors influencing the behavioural diversity of leaf-swallowing and host parasite relationships in chimpanzees of Budongo and Mahale. Inuyama COE International Symposium "Research on long-lived animals: The past, present and future of longitudinal studies" (Poster presentation) (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p. 65.
- 9) Okamoto, K. (2002) Long-term study of wild moor macaques (*Macaca maurus*). Inuyama COE International Symposium "Research on long-lived animals: The past, present and future of longitudinal studies" (Poster presentation) (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p. 69.
- 10) Takemoto, H. & Hirata, S. (2002) Recent observation on non-human primates in Rio Muni, Equatorial Guinea. Inuyama COE International Symposium "Research on long-living animals the past, present and future of longitudinal studies" (Poster presentation) (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p. 55.
- 11) Takemoto, H. (2002) Seasonal change in time spent for terrestrial behaviour of chimpanzees in relation to micrometeorology in the tropical forest. Inuyama COE International Symposium "Research on long-living animals the past, present and future of longitudinal studies" (Poster Presentation) (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p. 55.
- 12) Takemoto, H., Hirata, S. & Sugiyama, Y. (2002) Manufacture and use of brush-sticks by chimpanzees. Inuyama COE International Symposium "Research on long-living animals the past, present and future of longitudinal studies" (Poster Presentation) (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p. 61.

—和文—

- 1) 岡本暁子 (2001) 個体識別に基づく継続研究からみえてきたもの—野生ムンアモンキーにおける群れ内競合と群れ間競合. 日本哺乳類学会 2001 年度大会自由集会「現在のサル研究」(2001年10月 沖縄). 講演要旨集 p. 34.
- 2) 杉浦秀樹・藤田志歩・光永総子・清水慶子 (2002) 雌ニホンザルにおける交尾相手の選択性. 第 49 回日本生態学会大会 (2002年3月 仙台). 講演要旨集 p. 181.
- 3) 竹元博幸 (2001) チンパンジーの地上性行動の割合にみられる季節変化. 第 55 回日本人類学会大会・第 17 回日本霊長類学会大会連合大会 (2001年7月 京都). *霊長類研究* 17(2): 167.
- 4) 竹元博幸 (2001) 種子散布者としてのチンパンジー. 日本哺乳類学会 2001 年度大会 (2001年10月 沖縄). 講演要旨集 p.132.
- 5) 上原重男 (2001) マハレの昼行性中・大型哺乳類, とくに霊長類の生息密度: 1996 年と 2000 年の比較. 第 55 回日本人類学会大会・第 17 回日本霊長類学会大会連合大会 (2001年7月 京都). *霊長類研究* 17(2): 122 / *Anthropological Science* 110: 63.

社会構造分野

森明雄・大澤秀行・鈴木晃・杉浦秀樹

<研究概要>

A) ヒヒ類の研究

森明雄

サウジアラビア・タイフ市のゴミ埋め立て場に集まる巨大なマントヒヒの群れの個体群動態の調査をした後、ダムとアル・ルーダフ公園を利用する別のマントヒヒの群で、行動学的・社会学的調査を行なった。特に、今年度は、イヤール・タグで標識した個体の生存と所属するユニットを調べ、前年度のユニット構成との異同を明らかにした。結果は、ユニットはかなり不安定であることが分かった。

また、エチオピア南部アルシ州に生息するグラダヒヒのポピュレーションの研究を引き続き行っている。

B) 中央アフリカ乾燥サバンナにおける霊長類の社会生態学的野外研究

大澤秀行

カメルーン北部でパタスモンキーの野外研究を1986年以來行っている。今年度は、まず単雄群雄の交代のタイプ分けを行い、単雄群の維持と社会変動の機構について総括を試みた。他方、人口学的資料からは出産率、幼児と成体の死亡率などの個体数変動要素の各々の関係进行分析、議論した。また形態進化の研究者と共同でパタスモンキーの移動様式の資料进行分析した。これらの結果は、研究成果報告書「アフリカ熱帯林の霊長類とその草原への進出：比較研究」に掲載した。

C) ニホンザルの個体群動態・生活史・繁殖とその生態学的決定要因の研究

栗田博之¹⁾・大澤秀行・杉浦秀樹
・深谷もえ²⁾・森明雄・高橋弘之³⁾

高崎山の餌付け集団を対象に継続個体数調査を行い、得られた人口学的基礎資料をもとに人口学的諸変数を求め、個体群動態の研究を進めている。今年度は、初期成長と初期死亡率の分析を行うとともに(栗田)、近年の出産率の低下には、集団全体の個体数よりも、むしろオトナ雌数の増大が大きく影響していることを明らかにした(大澤)。また、野生群の金華山、屋久島西部海岸地域、個体群動態の継続調査を実施した(杉浦)。

宮崎県幸島では、主群を避けて島の片隅に生きる小さな分裂群の観察を前年度に引き続き行った。採食樹の結実とサルによる利用の年変動を検討した結果、2001年の秋は、2000年より1999年に似た果実の結実と利用の様相を示した(森)。さらにニホンザルの資源利用と、島全体の食物の利用可能度と比較する研究を開始した(深谷)。また、思春期オスの群からの離脱が、年齢によって決まるのか、体重から見た成長で決まるのか検討している(森)。

金華山の野生ニホンザルを対象に、メスの発情と交尾期の主要食物のアベイラビリティの関連、およびオスの繁殖戦略を研究した(高橋)。

D) インドネシア、ボルネオ島、クタイ国立公園のオランウータンの野生個体群の研究

鈴木 晃

2001年9月には、タンジュンと名付けたオランウータンの母親の第5仔が産まれた。個体間の血縁関係、個体関係、性周期、出産周期等、様々な基本的資料が整い集積されてきた。調査基地であるキャンプ・カカップの運営に関して、国立公園当局、石炭会社と協議を続けてきた。

E) 野生オランウータンの保全のための遺伝学的・採食生態学および繁殖生理学的研究

高橋弘之³⁾

インドネシア・西カリマンタン州ブトゥン・カリフン国立公園で野生オランウータンの野外調査を行った。ネストの発見数から、同公園中央部はオランウータンの密度が低く、一方、西部は密度が高いと考えられる。西部では、糞・尿・体毛等のDNA分析用サンプル採取に成功した。

F) ウガンダのカリンズ森林におけるチンパンジーと他種霊長類の生態学的研究

橋本千絵⁴⁾・田代靖子³⁾

食物生産量と社会的因子がチンパンジーの集団編成パターンにどのような影響を与えるかを調査した。また、哺乳類コミュニティの中でチンパンジーの占める生態的地位について研究すると共に、霊長類とその他の哺乳類の採食生態と環境利用に関するデータを分析した。

G) コンゴ森林における野生ボノボの社会及び行動の研究

橋本千絵⁴⁾・田代靖子³⁾

コンゴ民主共和国(旧ザイール)ジョル地区ルオ保護区ワンバ森林のボノボの継続調査を行っている。本年度は渡航自粛勧告のため現地調査はできなかったが、過去に収集された資料に基づき行動の分析を行った。

H) 分子生物学的手法を用いたチンパンジーの社会構造の比較と種分化に関する研究

田代靖子³⁾

ガボン共和国ムカラバ森林において、チンパンジーとゴリラの非侵襲的なDNA試料を採集し、グループ、パーティーの構成に関する分析をおこなった。あわせて調査地の樹種構成などの生態的条件に関する資料を収集した。

I) 母親的行動とホルモンの研究

Massimo Bardi⁵⁾

霊長類研究所ニホンザル放飼群を対象に、母性ホルモンと母親的行動の関連を研究した。雌親による、自分および他個体の子供に対する世話や拒絶といった行動と母性ホルモンの関連を調べ、複雌集団における母性行動の意義について検討した。

J) 発達の研究

上野有理²⁾・柏原将²⁾

霊長類研究所のチンパンジーを対象に、採食行動の発達を研究した(上野)。嵐山のニホンザルを対象に、子ども同士の社会関係の発達に母親同士の社会関係が及ぼす影響について研究した(柏原)。

K) グルーピングの研究

下岡ゆき子²⁾・杉浦秀樹

コロンビア・マカレナ地域の野生ケナガクモザルを対象に、離合集散の動態を研究した(下岡)。

ニホンザルの群の空間的な広がりについてデータの収集と解析を行った(杉浦)。

L) 野生チンパンジーの音声コミュニケーションに関する基礎研究

保坂和彦⁶⁾

1991年以來、タンザニア・マハレ山塊国立公園のチンパンジーを対象に収集してきた音声・映像資料を整理し、音声コミュニケーション研究の基礎となる音声行動目録及びデータベースの作成を進めた。

M) 移入タイワンザルの生息状況と雑種化の現状の研究

大澤秀行

和歌山市周辺に生息する移入タイワンザルの調査を1998年から行っている。調査は、研究所内の集団遺伝分野、ニホンザル野外観察施設の教官等および所外の研究者と広く協力しながら行っている。今年度、和歌山県によって全頭捕獲の決定がなされ、それに伴う資料収集を計画中である。

¹⁾2001年4月～9月 教務補佐員 ²⁾大学院生

³⁾日本学術振興会特別研究員 ⁴⁾研修員

⁵⁾COE外国人研究員 ⁶⁾COE非常勤研究員

<研究業績>

論文

—英文—

- 1) Bardi, M. & Borgognini-Tarli S. (2001) A survey on parents-children conflict resolution: Intrafamily violence in Italy. *Child Abuse & Neglect* 25: 839-853.
- 2) Bardi, M., Petto A.J. & Lee-Parritz D. A. (2001) Parental failure in captive cotton-top tamarins (*Saguinus oedipus*). *American Journal of Primatology* 54: 159-169.
- 3) Bardi, M., Shimizu K., Fujita S., Borgognini-Tarli S. & Huffman M.A. (2001) Hormonal correlates of maternal style in captive macaques. *International Journal of Primatology* 22: 647-662.
- 4) Bardi, M., Shimizu K., Fujita S., Borgognini-Tarli S. &

Huffman M. A. (2001) Social behavior and hormonal correlates during the perinatal period in Japanese macaques. *Hormones and Behavior* 39: 239-246.

- 5) Furuichi, T., Hashimoto, C. & Tashiro, Y. (2001) Seasonal changes in habitat use by chimpanzees in the Kalinzu Forest, Uganda: Extended application of marked nest census method. *International Journal of Primatology* 22(6): 913-928.
- 6) Furuichi, T., Hashimoto, C. & Tashiro, Y. (2001) Fruit availability and habitat use by chimpanzees in the Kalinzu Forest, Uganda: Examination of fallback foods. *International Journal of Primatology* 22(6): 929-945.
- 7) Hashimoto, C., Furuichi, T. & Tashiro, Y. (2001) What factors affect the size of chimpanzee parties in the Kalinzu Forest, Uganda? Examination of fruit abundance and number of estrous females. *International Journal of Primatology* 22(6): 947-959.
- 8) Kurita, H., Shimomura, T. & Fujita, T. (2002) Temporal variation in Japanese macaque bodily mass. *International Journal of Primatology* 23: 411-428.
- 9) Sugiura, H., Agetsuma, N. & Suzuki, S. (2002) Troop extinction and female fusion in wild Japanese macaques in Yakushima. *International Journal of Primatology* 23: 69-84.
- 10) Takahata, Y., Huffman M. A. & Bardi M. (2002) Long-term trends in matrilineal inbreeding among the Japanese macaques of Arashiyama B troop. *International Journal of Primatology* 23: 399-410.
- 11) Takahashi, H. (2001) Influence of fluctuation in the operational sex ratio to mating of troop and non-troop male Japanese macaques for four years on Kinkazan Island, Japan. *Primates* 43: 183-191.
- 12) Yoshida, T., Matsumuro, M., Miyamoto, S., Muroyama, Y., Tashiro, Y., Takenoshita, Y. & Sankai, T. (2001) Monitoring the reproductive status of Japanese monkeys (*Macaca fuscata*) by measurement of the steroid hormones in fecal samples. *Primates* 42: 367-373.

—和文—

- 1) 古市剛史・橋本千絵 (2002) ボノボとチンパンジーの性行動の再検討～なぜチンパンジーのメスの方が活発な性行動を見せるのか～. *霊長類研究* 17(3): 243-257.
- 2) 橋本千絵・古市剛史 (2002) 集団間移籍と近親交配の回避—ボノボのデータを用いたシミュレーション—. *霊長類研究* 17(3): 259-269.
- 3) 川本芳・大澤秀行・和秀雄・丸橋珠樹・前川慎吾・白井啓・荒木伸一 (2001) 和歌山県におけるニホンザルとタイワンザルの雑種に関する遺伝学的分析. *霊長類研究* 17(1): 1-23.
- 4) 田代靖子 (2001) ワンバ森林で新たに観察されたボノ

ボの肉食. 霊長類研究 17(3): 271-274.

書評

—和文—

- 1) 杉浦秀樹 (2001) 「霊長類生態学—環境と行動のダイナミズム」杉山幸丸 編著, 京都大学学術出版会. 霊長類研究 17(1): 31-32.

報告その他

—英文—

- 1) Mori, A. Boug, A., Iwamoto, T. & Doi, T. (2001) Comparison of two commensal groups of hamadryas baboons in Taif city. 平成 10—12 年度文部科学省科学研究費補助金基盤(A)(2)「ヒヒ類の社会構造の変異に関する生態学的・遺伝学的研究」研究成果報告書 pp.95-103. 研究代表者: 岩本俊孝.
- 2) Nakagawa N., Ohsawa, H. & Muroyama Y. (2001) Life history parameters of a wild group of west African patas monkeys (*Erythrocebus patas patas*). 平成 11—12 年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)(2)「アフリカ熱帯林の霊長類とその草原への進出: 比較研究」研究成果報告書 pp.(2) 1-11. 研究代表者: 大澤秀行.
- 3) Ohsawa, H. (2002) Social-dynamics of patas monkeys in Kala-Maloue national park, northern Cameroon. 平成 11—12 年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)(2)「アフリカ熱帯林の霊長類とその草原への進出: 比較研究」研究成果報告書 pp.(1) 3-11. 研究代表者: 大澤秀行.

—和文—

- 1) 茶谷薫・濱田穰・大澤秀行 (2002) 野生パタスモンキーの運動とその発達. 平成 11—12 年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)(2)「アフリカ熱帯林の霊長類とその草原への進出: 比較研究」研究成果報告書 pp.(4) 1-33. 研究代表者: 大澤秀行.
- 2) 濱田穰・茶谷薫・大澤秀行 (2002) パタス・モンキーのロコモーション特徴について. 平成 11—12 年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)(2)「アフリカ熱帯林の霊長類とその草原への進出: 比較研究」研究成果報告書 pp.(3) 1-8. 研究代表者: 大澤秀行.
- 3) 橋本千絵 (2001) ボノボ “Pre-PHVA” ワークショップからの報告—生息の現状分析と保護計画の策定に向けて—. 霊長類研究 17(1): 25-29.
- 4) 森明雄 (2001) オスのマントヒヒによる若齢個体に対する世話行動とハーディング行動. 平成 10—12 年度文部科学省科学研究費補助金基盤(A)(2)「ヒヒ類の社会構造の変異に関する生態学的・遺伝学的研究」研究

成果報告書 pp. 79-89. 研究代表者: 岩本俊孝.

- 5) 杉浦秀樹 (2002) 金華山のサル・生まれる赤ん坊の性比. 宮城県のニホンザル 12: 15-16.
- 6) 杉浦秀樹・小山陽子 (2002) 金華山のサル・オスは何歳で群れを出るか. 宮城県のニホンザル 12: 9-14.
- 7) 鈴木晃 (2001) 野生オランウータンの生活. (地球映像ネットワーク, 東京). Wildlife 6: 20-23.

著書

—英文—

- 1) Hashimoto, C. & Furuichi, T. (2001) Current situation of bonobos in the Luo Reserve, Equateur, Democratic Republic of Congo. In: All Apes Great and Small, Volume 1: African Apes (eds. Galdikas B. M. F., Briggs, N. E., Sheeran, L. K., Shapiro, G. L., & Goodall, J.). Kluwer Academic / Plenum Publishers, New York. pp. 83-93.
- 2) Hosaka, K., Nishida, T., Hamai, M., Matsumoto-Oda, A. & Uehara, S. (2001) Predation of mammals by the chimpanzees of the Mahale Mountains, Tanzania. In: All Apes Great and Small, Volume 1: African Apes (eds. Galdikas B. M. F., Briggs, N. E., Sheeran, L. K., Shapiro, G. L., & Goodall, J.). Kluwer Academic / Plenum Publishers, New York. pp. 107-130.

—和文—

- 1) 西田利貞・保坂和彦 (2001) 霊長類における食物分配「ホミニゼーション」(西田利貞編). 京都大学学術出版会. pp. 255-304.

学会発表等

—英文—

- 1) Bardi M. & Huffman M. A. (2001) Effects of maternal style on infant behavior in macaques. XVIIth Annual Meeting of the Primatological Society of Japan (July 2001, Kyoto, Japan). Primate Research 17: 135.
- 2) Bardi, M., Shimizu K., Barrett G. M., Huffman M. A. & Borgognini-Tarli S. M. (2002) Perinatal stress and maternal behavior in Japanese macaques. COE International Symposium “Research on Long-lived Animals: The past, present and future of longitudinal field studies” (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p. 54.
- 3) Bardi, M., Shimizu K., Huffman M. A. & Borgognini-Tarli S. M. (2001) Endocrine, social and environmental factors affecting maternal behavior in macaques. XIVth Annual Meeting of the American Society of Primatologists (August 2001, Savannah, Georgia). American Journal of Primatology 54: 28-29.
- 4) Furuichi, T. & Hashimoto, C. (2001) Evaluation of factors affecting chimpanzees' choice of sleeping sites. The Winter Meeting of the Primate Society of Great Britain (Dec. 2001, London). Primate Eye 75: 27.

- 5) Hanya, G., Matsubara, M., Sugiura, H., Hayakawa, S., Tanaka, T., Soltis, J. & Noma, N. (2002) Mass mortality of Japanese macaques in Yakushima. COE International Symposium "Research on Long-lived Animals: The past, present and future of longitudinal field studies" (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p. 50.
- 6) Hashimoto, C. & Furuichi, T. (2002) Introduction of an eco-tourism program for the conservation of the Kalinzu Forest, Uganda. COE International Symposium "Research on Long-lived Animals: The past, present and future of longitudinal field studies" (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p.62.
- 7) Hashimoto, C., Furuichi, T. & Tashiro, Y. (2001) Factors influencing chimpanzee party size in the Kalinzu Forest. The Winter Meeting of the Primate Society of Great Britain. London. Primate Eye 75: 20.
- 8) Hashimoto, C. & Takenaka, O. (2002) DNA analysis of wild bonobos (*Pan paniscus*) using noninvasive samples at Wamba, DR Congo. COE International Symposium "Research on Long-lived Animals: The past, present and future of longitudinal field studies" (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p.12.
- 9) Kurita, H., Sugiyama, Y. & Ohsawa, H. (2002) A half century's summary of a provisioned Japanese macaque population at Takasakiyama and its management. COE International Symposium "Research on Long-lived Animals: The past, present and future of longitudinal field studies" (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p. 30.
- 10) Mori, A. & Watanabe, K. (2002) Life history of Japanese macaques living on the Koshima islet. COE International Symposium "Research on Long-lived Animals: The past, present and future of longitudinal field studies" (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p. 6.
- 11) Nakagawa, N., H. Ohsawa, H. & Muroyama, Y. (2002) Population and social dynamics of Patas monkeys in Kala Maloué National Park, Northern Cameroon. COE International Symposium "Research on Long-lived Animals: The past, present and future of longitudinal field studies" (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p. 20.
- 12) Ohsawa, H., Kawamoto, Y., Shirai, K., Nigi, H., Maruyashi, T., Maekawa, S., Muroyama, Y., Araki, S. & other members of the Working group for survey of Wakayama Taiwan macaques (2002) Invasion of Taiwan macaques into Wakayama prefecture, Japan, and their hybridization with Japanese macaques. COE International Symposium "Research on Long-lived Animals: The past, present and future of longitudinal field studies" (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p. 64.
- 13) Saito, C., Sugiura H. & Izawa, K. (2002) Long term research on the Japanese macaques of Kinkazan island-Results and topics. COE International Symposium "Research on Long-lived Animals: The past, present and future of longitudinal field studies" (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p. 51.
- 14) Sugiura, H., Agetsuma, N. & Suzuki, S. (2002) Troop extinction and female fusion in wild Japanese macaques in Yakushima. COE International Symposium "Research on Long-lived Animals: The past, present and future of longitudinal field studies" (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p. 51.
- 15) Suzuki, A. (2002) Orangutans compared. The Leakey Foundation 2002 Workshop (Feb. 2002, San Francisco).
- 16) Suzuki, S., Noma, N., Hanya G. & Sugiura, H. (2002) Long-term studies on the wild Japanese macaques in Yakushima, Japan. COE International Symposium "Research on Long-lived Animals: The past, present and future of longitudinal field studies" (Jan. 2002, Inuyama). Abstracts p. 52.

—和文—

- 1) 古市剛史・橋本千絵 (2001) チンパンジーはどこに泊まるか：地形・植生・採食樹からの検討. 第55回日本人類学会大会・第17回日本霊長類学会連合大会 (2001年7月, 京都). 霊長類研究 17(2): 123.
- 2) 橋本千絵 (2001) 野生ボノボにおける母子間の食物分配について. 第55回日本人類学会大会・第17回日本霊長類学会連合大会 (2001年7月, 京都). 霊長類研究 17(2): 141.
- 3) 橋本千絵 (2001) オトナたちから学ぶ性と社会行動～ボノボの子供の成長過程から～. 第55回日本人類学会大会・第17回日本霊長類学会連合大会 (2001年7月, 京都). 霊長類研究 17(2): 100.
- 4) 橋本千絵 (2001) チンパンジーの乱婚システムの再検討：ウガンダ共和国カリンズ森林からの報告. 2001年林原フォーラム/第4回 SAGA 国際シンポジウム (2001年11月, 岡山). 講演要旨集 p.95.
- 5) 坂和彦 (2001) チンパンジーにおける暴力と平和. COE 形成基礎研究費「類人猿の進化と人類の成立」人類学連携シンポジウム「暴力の進化史」 (2001年12月, 京都).
- 6) 森明雄 (2001) オスのマントヒヒによる若齢個体に対する世話行動とハーディング行動. 第55回日本人類学会大会・第17回日本霊長類学会連合大会 (2001年7月, 京都). 霊長類研究 17(2):127.
- 7) 杉浦秀樹・揚妻直樹・田中俊明 (2001) 屋久島の西部林道周辺における野生ニホンザルの個体数変動とモニタリング方法. 第55回日本人類学会大会・第17回日本霊長類学会連合大会 (2001年7月, 京都). 霊長類研究 17(2):168.
- 8) 杉浦秀樹・藤田志歩・光永総子・清水慶子 (2002) 雌ニホンザルにおける交尾相手の選択性. 第49回日本

生態学会大会 (2002年3月, 仙台), 予稿集 p. 181.

- 9) 鈴木晃 (2001) オランウータンの性周期と社会構造. 第55回日本人類学会大会・第17回日本霊長類学会大会連合大会, (2001年7月, 京都). 霊長類研究 17(2):128.
- 10) 田代靖子 (2001) ウガンダ・カリンズ森林におけるグエノンの無脊椎動物食. 第55回日本人類学会大会・第17回日本霊長類学会大会連合大会 (2001年7月, 京都). 霊長類研究 17(2):166.

行動神経研究部門

思考言語分野

松沢哲郎・友永雅己・田中正之

<研究概要>

- A) チンパンジー・コミュニティにおける知識・技術の社会的伝播

松沢哲郎・友永雅己・田中正之・明和政子¹⁾
・平田 聡¹⁾・松林清明²⁾・後藤俊二²⁾・鈴木樹理²⁾
・熊崎清則²⁾・前田典彦²⁾・加藤朗野²⁾・南雲純治³⁾
・道家千聡⁴⁾・落合知美⁵⁾・大橋 岳⁶⁾・中島野恵⁶⁾
・上野有理⁶⁾・クローディア=ソウザ⁶⁾
・マウラ=チェリ⁶⁾

チンパンジー母子3組を中心とする1群14個体の飼育下コミュニティを対象として, 道具使用行動や認知スキルの母子間・世代間・コミュニティ内での伝播について実験的な検討を行った。これらは以下の研究者との共同研究である。竹下秀子, 水野友有 (以上, 滋賀県大), 武田庄平 (東京農工大), 岡本早苗 (名古屋大), 林 美里 (京都大), 伊村知子 (関学大), 魚住みどり (慶応大), ナデージュ=バコン (コンピエンヌ工科大)。また, NHK (アニカ・プロダクション), 中京TV, 毎日新聞と共同して, 知識・技術の社会的伝播に関する映像記録をまとめた。

- B) チンパンジーの認知発達研究

松沢哲郎・友永雅己・田中正之・明和政子¹⁾
・平田 聡¹⁾・松林清明²⁾・後藤俊二²⁾・鈴木樹理²⁾
・熊崎清則²⁾・前田典彦²⁾・加藤朗野²⁾・南雲純³⁾
・道家千聡⁴⁾・落合知美⁵⁾・クローディア=ソウザ⁶⁾
・大橋 岳⁶⁾・中島野恵⁶⁾・上野有理⁶⁾

チンパンジーの乳児3個体を対象として, チンパンジーの認知発達の研究を総合的にこなった。これらは以下の研究者との共同研究である。小嶋祥三³⁾, 泉 明宏⁷⁾, 平井啓久²⁾, 上野吉一²⁾, 三輪宣勝²⁾, 濱田 稔⁸⁾, 茶

谷 薫¹⁾, 西村 剛⁶⁾, 三上章允⁹⁾, 清水慶子¹⁰⁾, 藤田和生, 板倉昭二, 石川 悟, 桑畑裕子, 村井千寿子, 林 美里 (以上, 京都大), 川合伸幸, 岡本早苗 (以上, 名古屋大), 竹下秀子, 水野友有 (以上, 滋賀県大), 伊村知子 (関学大), 魚住みどり (慶応大), 関根すみれ (林原博物館), ナデージュ=バコン (コンピエンヌ工科大)。

- C) チンパンジーの認知・言語機能の比較認知的研究

松沢哲郎・友永雅己・田中正之・南雲純治³⁾

・クローディア=ソウザ⁶⁾・ジョエル=ファゴ¹¹⁾

チンパンジーとヒトを対象に, 認知・言語機能の比較研究を継続しておこなった。主として, 1個体のテスト場面で, 数の大小判断, 視線の認識, 絵画的奥行き知覚, カテゴリー認識, トークンの使用, ビデオ画像の記憶, 図形の大域的/局所的処理などの研究をおこなった。これらは以下の研究者との共同研究である。川合伸幸, 岡本早苗 (名古屋大), 伊村知子 (関学大), 森村成樹 (林原博物館)。

- D) 野生チンパンジーの道具使用と文化的変異

松沢哲郎・平田 聡¹⁾・クローディア=ソウザ⁶⁾

・大橋 岳⁶⁾・藤田志歩⁶⁾

西アフリカ・ボソウとその近隣のコミュニティー (ニンバ, ディエケ) の行動と生態を2001年5月から2002年3月まで調査し, ビデオ記録の解析をおこなった。これらは, 以下の研究者との共同研究である。山越 言 (京都大), ドラ=ピロ (オックスフォード大), タチアナ=ハムル (スターリング大)。また, イギリスBBC放送と共同して, 道具使用の多様性に関する映像記録をまとめた。

- E) オランウータンの行動・認知研究

松沢哲郎・平田聡¹⁾

マレーシア・ボルネオ島のオランウータンの行動を2002年3月に調査し, ビデオ記録の解析をもとに, チンパンジーとの比較の観点から行動・認知発達について検討した。

- F) 飼育霊長類の環境エンリッチメント

松沢哲郎・友永雅己・鈴木樹理²⁾

・熊崎清則²⁾・前田典彦²⁾・落合知美⁵⁾

動物福祉の立場から環境エンリッチメントに関する研究をおこなった。3次元構築物の導入や植樹の効果の評価, 個別飼育マカクザルへの各種パズルフィーダー導入の効果, 芳香刺激の呈示によるストレスの低減, 認知的ストレスの非侵襲的生理指標による評価などを行った。また, 「環境エンリッチメントのすすめ」をインターネット